



医学部長

末岡 榮三朗

Sueoka Eizaburou

医学部長のメッセージ

佐賀大学医学部は昨年、開講40周年を迎え新たな時代に入りました。

佐賀大学医学部の理念は、「良き医療人の養成」という基本理念に基づき、教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することです。古川初代（佐賀医科大学）学長は、「地域医療への貢献」「赤ひげの医師像の実践」など、単なる医療従事者としての知識や技術の習得のみならず、基本的な医療者としての姿勢を育成することを課題に掲げられました。それから40年という時を経て、医療技術の進歩や社会情勢の変化など、医療教育の在り方も変わりつつあります。しかしながら一貫して変わらないのは、医療技術の習得は勿論のこと、プロフェッショナリズムと人格的にも優れた医療人の育成という医学部のミッションです。また、佐賀県は東アジアに近いという地理的な利点があり、今後アジアを中心とする国際的な医療に対応できるような医学教育改革を行い、幅広い視野を持った良き医療人を育成したいと考えています。

そのような医学部の理念が独りよがりにならないように、そして医学教育に関する国際評価に耐えうる基準を維持するために、医学科では今年の年末に医学教育分野別評価の受審を受ける準備を進めてまいりました。これまで行ってきた医学教育の在り方を見直し、国際標準による評価を行い、今後の医学教育の在り方を再確認する重要な取り組みであり、医学科各講座が一丸となって取り組んでいます。根底にあるのは、「よき医療人の育成」を佐賀からという思いです。

看護学科では、佐賀という地域特性をよく理解したうえで、医学科同様、人格的にも優れた看護職の育成を目指します。幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけ、看護学及び医学の専門的知識、技術を習得し、地域及び国際社会に貢献することのできる、今後の医療体制の変化にも対応できる看護師像を輩出できればと考えます。

基礎研究についても、現在行われている研究テーマを「シーズからオープン・イノベーションへ」を目標として、異分野との連携や産学共同開発への支援を強化したいと考えています。具体的には今年4月には医学部附属再生医学研究センターが設置され、バイオ3Dプリンタで作製した細胞製人工血管を移植する再生医療の臨床研究がスタートしました。そのほか基礎医学と臨床研究がうまく結びついた複数のトランスレーショナル・リサーチがシーズの段階から臨床応用へと進みつつあります。これらの研究を医学部としても支援しつつ、学生には基礎研究の重要性や楽しさも分かってもらい、基礎医学も理解できる深みを持った医療人として育つための工夫もしていきたいと考えます。

最後になりましたが、臨床の現場では医師臨床研修制度も大きく変化し、新専門医制度は2年目を迎えました。さらに医師の働き方改革も始まり、超高齢社会にも耐えうる医療提供体制を構築するため、「地域医療構想」が制度化されました。このような医療現場の状況の変化に対して、国全体の動きと佐賀の地域の実状を踏まえて、佐賀大学医学部の皆さんと一緒に活動していけたらと思っています。